

愛知世界選手権に続くフット0世界戦の舞台、イタリア・ワールドカップ。愛知を次を託された日本の新世代に聞く



日本躍進!の象徴、皆川&小泉両選手

## 確かな足跡

～小泉・皆川両選手に聞く～

日本代表が「地の利」により、過去最高の成績を修めたと言われた2005年世界選手権(WOC)では、「地の利」が取り除かれた時には、どうなるのでしょうか? 10月に行われたワールドカップ(WCup)で、若手選手がその間に対して力強い回答をしてくれました。

男子では小泉成行選手が、女子では皆川美紀子選手がミドル・スプリント両種目で堂々の予選通過、決勝進出。両選手は「あの夏」の好成績は、「地の利」だけで得られたものではないということを証明してみせました。今回のオリエンテーリング道場では、この両選手のワールドカップ後のコメントを紹介します。

## 今回のワールドカップ形式

ミドルとスプリントは予選決勝形式。予選は3組に分かれ、各組17名・合計51名が決勝進出となる。一見各組15名決勝進出の世界選手権よりも「広き門」のように映るが、各種目各国3名まで(前年優勝者を含めても最大4名

まで)出走可能な世界選手権に対し、ワールドカップは各種目6名までエントリー可能。つまり「強国」の選手が同一組内に複数名を連ねることも普通である。予選の厳しさは「世界選手権以上」とも言えた。現にアンドレイ・ハラモフ選手(世界選手権ロング優勝・ワールドカップシリーズ優勝)がスプリントで予選落ち、という波乱も見られた。

## ワールドカップの目標

Q1: 10月にイタリアで行われたワールドカップの、ミドルとスプリント2種目で見事予選を通過、決勝に進出した小泉選手と皆川選手に伺います。

日本チームはWOC2005で多くの決勝進出者を出しましたが、「地の利」のおかげと見る向きもありました。海外で行われるハイレベルのレースでどれだけできるかが注目され、その意味でも重要な遠征だったと思います。今回のワールドカップでの目標はどのように設定していましたか?

A1:

皆川: ミドルは実は今回の重点種目ではなく、特に目標を定めていませんでした。スプリントは決勝でトップ比120%以内。ロングはトップ比135%以内が目標でした。

小泉: 世界選手権ではスプリントへの出場でしたが、本命だったミドルの方が結果を出せる自信がありました。なので今回の大会ではミドルで予選を通過すること、決勝でワールドカップポイントを取る(40位以内)を目標にしていました。私はタイム比を目標にするのはどうもピンとこないので順位重視です。それと市街地でのスプリントは好きなので、スプリントでも予選は通過したいなと思っていました。今後のことを考えてロングにも挑戦してみようと思いましたが、これは完走が目標。でも正直、結果は出なくてもいいかなという気持ちが強かったです。意識したのは世界でココにしかないトレインを走れる喜びを感じることでした。



恐怖の「微地形+モザイク状植生」ミドルトレイン(予選決勝とも同一トレイン)

## イタリアでの手応え

Q2: ミドルとスプリントの予選については、過去のご自身あるいは他の日本人選手と比べた場合、またWOC2005との比較でも「成功」と言って良い結果が得られたと思います。両レースの、ゴール後の手応えはいかがでしたか?

A2:

皆川: ミドルは、まだ私には難しいと思ってましたし、ミドルで世界と比べる機会は今までなかったので、正直レース後は通過するかまったくわかりませんでした。ただ、スピードは抑えていましたが、自分では大きなミスもなくまとめられたレースだったと満足してました。スプリントは、明らかにWOCでの予選レースの方が良かったです。前半が山で、後半が街という特殊なトレインでしたので、どのくらいのスピードで行けばいいのか、どうすれば速いのか分からなかったので、街で焦ってミスを多発してしまいました。ゴール後は、落ちたと思ったのですが、案外周りもはまっていたらしくボーダー上でほっとした感じでした。

(インタビュー記: 実は前半4割を占めた森のエリアでの皆川選手の通過タイムは組内2位。決勝では入賞すら期待させられました。今後も期待して良いでしょう。)

小泉:(ミドル、スプリント)どちらのレースも、いい出来ではなかったです。大きなミスは1回ずつしたし、もっとスピード出して走れたかもという不満もあったし。  
これまでの感覚だと予選は厳しいという感覚でした。でも、通過できた。これはこの数年間の成果だと思います。

## 特殊なトレインへ対応

Q3: ミドルとスプリントのトレインは、「特殊」なように思われます。少なくともお二人がこれまで経験していないタイプのトレインだったはずですが、そこで結果を得ることができたのは何故でしょうか? 有効と思われた準備があったら教えてください。

A3:

皆川: ミドルに関しては、特殊であったから予選を通過できたと思います。それは、世界中の選手みんなにとっても特殊で難しいし、スピードは上げられないということを感じられたからです。そのことは、モデルイベントに入ってからわかりました。モデルイベントに入ったときに難しいと思ったけど、できないとは思わなかったし、そこで本番のレースのイメージがつかめていました。

スプリントは、山はやぶくてWOCと同じ感じにやれば良いと思っただけで、そこまで不安はなく、街中のレースの方が心配でした。モデルのときに思った以上に道が分かりにくく、すぐ通り過ぎるを感じ、ゆっくりやらなければいけない・ゆっくりでも確実に行くことが大事と思ったのですが、実際のレースではとても焦ってしまい、スピードを上げすぎて失敗しました。ゴール後に海外選手と話したのですが、スピードが上げられなくて、地図を見ながらゆっくりやると言っていて、やはりスピードの切り替えをしっかりやらなきゃいけないと感じました。

小泉: 旧マップもあまり当てにならなかったですから、大した事前準備はしていませんでした。意識したことといえば、目の前の課題を1つ1つこなすこと、ルー

トプランをシンプルにシンプルに考えることです。ティエリー・ジョルジュ選手(フランス)のWOC2003ミドルのアナリシスなどを読んだりしてイメージを高めました。



超難解! スプリント決勝の街は「迷宮」  
(このエリアの等高線間隔は12.5m)

## 今後の課題

Q4: 一方、両種目決勝と他の種目では十分に潜在能力を発揮しきれなかった印象も受けます。その辺りについてご本人はどうお考えでしょうか。

A4:

皆川: これは今後の検討課題です。いろんな要因があると思いますが、決勝に出られたので、少しでも上に行きたい、そのためには自分の限界のスピードで勝負しなきゃと思って、いつも以上のことをやろうとしてしまうから失敗するのだと思います。今の実力を出すことが重要だと思う反面、少し無理をしてもスピードを上げたいという潜在的な欲求にうまく自分をコントロールできてなくなったことが1つの要因であると思います。ただ単純に予選より難しく、自分のレベルが達していなかったということも考えました。他にもいろいろ考えられることがあるのでじっくり検討したいと思っています。

小泉:(ミドルとスプリントの)決勝は、コースがとにかく難しかったです、もうお手上げて感じ(苦笑)。体力的にというよりは、地図読みの段階で「難しい!」て

思っていました。でも、この世界のトップ選手のために用意された難しいコースを走れることはすごく楽しかったです。ミスしてもワクワクしてしまいました。でもこれで感覚を覚えましたから、次はピリにはなりません。  
ロングは、やっぱり厳しかったですね。長い距離の走り方がよくわからないというか。リレーはうまくまとめられました。次は、人と競り合う場面を経験したいですね。



ロングとリレーはいわゆる「大陸トレイン」の典型

## 愛知との違いは

Q5: 地元開催のWOC2005と今回のワールドカップでは多くの点において環境に違いがあったと思います。どういうところに違いを感じましたか? 大会の雰囲気はどうでしたか? 「やりにくさ」はありませんでしたか?

A5:

皆川: WOCとの違いは、「周りに日本人が少ない点」「寒い点」「4種目全てに出場する点」が大きく違っていました。意気込みとしては、WOCではまさにその大会にけるものが大きく、WCupは来年のWOCを目指すためのステップという思いが強かった点で違いがありました。  
併設などもなく、会場にいるのは選手だけ(とオフィシャル)という状況で、こじんまりしている気がしましたが、やりにくさは感じませんでした。今回はロブ(註: ロブ・プロライト氏。現在日本チームのテクニカルスタッフを務める)がついて

きてくれてアドバイスをしてく  
れたので、安心してできました。

小泉：今回は安く済ませるとい  
ことで、食事も自炊でしたが、集団  
行動が多いと精神的に疲れて沈  
んでしまうタイプなので心配で  
した。「一日一おしゃれ」という  
イタリアらしい(?)スローガ  
ンを掲げ、気分転換を心がける  
ことでそういう疲れを癒すこと  
に成功したと思います(笑)。  
イタリアの運営者は親切だっ  
たし、けっこうアバウトなので気  
が楽でした(笑)。細かいことま  
で決まっている分、日本の大会  
のほうがかえって疲れることも  
あります。もちろんどの国でも  
ホスピタリティ・マインドが感  
じられて嬉しいですけど。

## 未来に向けて

Q7 :最後に、今後の国際大会での目標  
をお願いします。

A7:

皆川：次は、PWT(註：パークワールド  
ツアー。11月上旬に中国で開催)  
で6位以内に入りたいです。  
WOC2006(デンマーク)では決勝  
に進出し、30位以内の成績をと  
りたいです。リレーは1桁。

小泉：WOC2006で決勝30位台、08年  
のWOCチェコで20位以内を目指  
します。07年はチェコのために  
準備したいのでウクライナに行  
くか、チェコに長期滞在するか  
いろいろ考えています。その先  
は、そのときの結果次第ですね。  
ターゲットはやっぱりミドルか  
な。競技性に一番楽しみを感じ  
られますから。これからも応援  
よろしくお祈りいたします。

～ 帯同したロブ氏も言っていまし  
たが、まさに「若い選手の活躍はその  
国の強化がうまくいっている証明にな  
る」と思います。今後も活躍を期待し  
ています。

(松澤俊行)

<松澤俊行プロフィール>

1972年静岡県生まれ。東北大学に入学  
した1991年からオリエンテーリングを始  
める。現在は愛知教育大学 教育学部 生涯  
教育課程 スポーツ・健康コースで生涯ス  
ポーツの指導について学ぶ。2000年度・  
2003年度全日本選手権優勝。1999年・  
2001年・2004年世界選手権日本代表。  
ホームページURLは  
<http://members.aol.com/mazzawa/>

## <ワールドカップ地図販売のお知らせ>

出場日本選手6名のサイン入りホルダー(松澤俊行・小泉成行・坂本貴史・  
宮内佐季子・渡辺円香・皆川美紀子)に閉じた「ワールドカップイタリアラウ  
ンド地図集」を販売いたします。

【内容】

ミドル予選コース図 ミドル決勝コース図 スプリント予選コース図  
スプリント決勝コース図 ロング決勝コース図  
リレー全コントロール図およびパターン表

以上、6枚1セット(いずれも競技には未使用の、汚れのない地図)です。  
コース図は、MEもしくはWE1枚ずつ(予選は1組分)となります。なお、  
現地で未使用のものが入手できなかったコース図はカラーコピーで代用さ  
せていただきます。

【販売数】ME・WE各3セット計6セット。先着順となります。

【販売価格】4000円+送料。

「西日本大会」「全日本リレー大会」での受け取りを希望される場合、送料  
は不要となります。なお、売上は出場選手の遠征費補助金とさせていただきます。

【申し込み方法】

EメールもしくはFAXにて 氏名 住所 電話番号 Eメールアドレス  
もしくはFAX番号 希望のセット(第1希望がMEセットかWEセット  
か) 希望の受け取り方法(郵送か会場受け取りか)をお知らせください。  
Eメールの場合、mazzawa@aol.comへ、  
FAXの場合0566-36-5926へ送信をお願いいたします。  
先着6名以内の場合もそうでない場合も返信いたします。  
皆様、振るってお申し込みください。

<イチオシイベント>全日本リレー2005

## 一足先に白石島へ

2005年12月18日に瀬戸内海の白石  
島を舞台に全日本リレー大会が開催さ  
れる。この島が登場する小説があるの  
をご存知だろうか?

彼のオートバイ、彼女の島

片岡義男

角川書店 昭和55年発行  
ISBN4-04-137109-0

オートバイ狂のコオと、白石島出身のミ  
ーヨのストーリー。舞台は東京・信州・  
そして白石島。白石島の描写は少ない  
が、雰囲気は見事に描かれている。現地  
入りする前に読んでおくイメージが  
高まるかも。

原作は当時超売れっ子作家だった片岡義男。この小説はいわゆる角川映画とし  
て公開され、現在でもDVDが販売されている。主演は原田貴和子、原田知世  
の姉である。メガホンを取ったのは映像の魔術師・大林宣彦。瀬戸内海を撮ら  
せたら大林の右に出るものはいない。しかしストーリーの中で瀬戸内海のシー  
ンはわずかだけ、しかもロケは白石島ではなく小豆島で行われたという話なの  
でDVDでは島を実感することはできないようだ。(木村佳司)



原田貴和子主演の映画は  
昭和50年代の香りがする。